allcinema

# 恐怖の火あぶり（1979）

DON'T GO IN THE HOUSE

**メディア** 映画
**ジャンル** ホラー
**製作国** アメリカ
**時間** 84分
**公開情報** 劇場未公開・ビデオ発売

**【解説】**

邦題から見ると残酷映画のようだが、実際は心にトラウマを持つ分裂症の主人公の心の内側を捕えたサイコ・ホラーで、製作当時は生きたまま裸の女を焼き殺すというシーンが話題を呼んだそうだが、今となってはそのシーンはそれほどショッキングではない。幼い頃から母親に腕を火であぶられると言う虐待を受けていた青年が、母親の死後、家の中の一室を金属で覆い改装。女を憎み、町に出ては女を拾い惨殺を繰り返すようになる……。幼い頃よりずっと心の奥底で恐れを抱いていた、母親という恐怖の対象が急になくなったことにより、心のタガがはずれ暴走するというのは現実でも十分ありえることで、現在の精神的犯罪者のほとんどが、なにかしら幼い頃に両親によって虐待などの心の傷を持っているという事実と照らし合わせてみても、この作品は忠実なリアリティに裏付けされているといえるだろう。残酷描写だけが先走りした感のあるこの作品も、実は人間の奥底を捕えたヒューマン・ドラマ的な要素が強い。自分の異常さに気づいた主人公は何とかそれを改めようと、神父に心の傷を打ち明け、友達からディスコに誘われると洋服屋で全身をコーディネートしてもらう。自分を変えようと懸命に努力しているのだ。結局は、またしても幼き日のトラウマが邪魔をし、彼は悲しみながらも殺人鬼に戻ってしまうのだが、見る者は残酷な殺人犯だが哀れな主人公に奇妙な同情すら覚えてしまう。観終わった後、何か切ない物を残してくれる作品である。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | ジョセフ・エリソン | Joseph Ellison |
| **製作** | エレン・ハミル | Ellen Hammil |
| **原作** | ジョセフ・Ｒ・メイスフィールド | Joseph R. Masefield |
| **脚本** | ジョセフ・エリソン | Joseph Ellison |
| | エレン・ハミル | Ellen Hammil |
| | ジョセフ・Ｒ・メイスフィールド | Joseph R. Masefield |
| **撮影** | オリヴァー・ウッド | Oliver Wood |
| **音楽** | リチャード・エインホーン | Richard Einhorn |
| **出演** | ダン・グリマルディ | Dan Grimaldi |
| | ルース・ダーディック | Ruth Dardick |
| | ロバート・オス | Robert Osth |
| | ビル・リッチ | Bill Ricci |
| | デニス・ハント | |
| | ケン・ケルシュ | Ken Kelsch |
| | チャールズ・ボネット | |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.